

新型コロナウイルスワクチンの副反応に関するご相談について

- 接種後は、注射した部分の痛みや腫れ、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、悪寒、発熱等の副反応が起こることがあります。
- 治療を要したり、障害が残るほどの重度なものは極めてまれですが、何らかの副反応が起こる可能性をゼロにすることはできません。
- 接種後、何らかの副反応を疑う症状が起こった場合、ご心配であれば、身近な医療機関（接種を行った医療機関、かかりつけ医等）を受診し、医師にご相談されることをお勧めします。



なお、県ではワクチン接種に係る副反応相談窓口を設置していますので、こちらにご相談いただくことも可能です。

静岡県新型コロナウイルスワクチン接種副反応相談窓口（令和6年3月31日まで）

電話番号：050-5445-2369

受付時間：午前9時～午後5時
（毎日（土日・祝日含む））

※聴覚に障害のある方の相談窓口

E-mail：shizuoka@rm-support.co.jp

【お知らせ】

この窓口は、令和6年3月31日で終了します。令和6年4月1日以降の相談先は、以下の県ホームページを確認いただくか、下記お問い合わせ先へご連絡ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/covid19/kojin/1053087/covid19-vaccine/1024464.html>



- 窓口では「発熱しているが解熱剤を服用しても良いか」、「この症状は副反応なのか」などの相談に看護師又は保健師がお答えします。
- 電話による診察・診療や処方、医療機関の紹介はできません。
- 通話料は相談者様のご負担になります。
- 接種の予約、接種券、接種場所等に関すること、健康被害救済制度に関しては、住民票のある市町へお問い合わせください。

お問い合わせ先 静岡県 健康福祉部 新型コロナ対策推進課 機動第3班
電話番号 054-221-2218(平日:8:30~17:15)

●接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

アナフィラキシー	<ul style="list-style-type: none"> 薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。 じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。 起こることは極めてまれですが、接種後にアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応できるよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。
血管迷走神経反射	<ul style="list-style-type: none"> ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。 誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常横になって休めば自然に回復します。 倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子を見てください。

●ワクチンを受けた日の注意点

- 激しい運動は控えてください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分を強くこすらないようにしましょう。

●接種後、数日以内に現れる可能性のある症状について (オミクロン株対応ワクチン)

発現割合	症状	
	ファイザー社	モデルナ社
50%以上	注射部位の痛み	注射部位の痛み、疲労
10~50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節痛	頭痛、筋肉痛、関節症、リンパ節症、悪寒、悪心・嘔吐
1~10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・硬結、発熱

※大部分の症状は、接種後数日以内に回復しています。